ポーランドのロマン主義とは何か
ポーランド・アイヌ祖霊祭夜明け前/シンヌラッパ・クンネニサッ
札幌11月28日（月）

Dziady polsko-ajnuskie/Przedświt Shinnurappa_Kunnenisat
28 listopada, Sapporo

一部
場所　かでる　２・７
５２０研修室〈北2西7〉
13:00　開場
13:30　～　15:00　入場無料
- 関口時正教授講演「ポーランドのロマン主義――ミツキェーヴィチ作《祖霊祭》の役割と意義」
- 林家とんでん平　朗読　「祖霊祭」

二部
場所　シアターZOO
扇谷記念スタジオ、中央区南11条西1丁目3−17
ファミール中島公園
入場無料
16.00　開場
16.30　劇的朗読
ポーランド・アイヌ祖霊祭夜明け前 シンヌラッパ・クンネニサッ

出演:
メノコ・モシモシ
アマレヤ
音楽作曲アンア・イグナトヴィチ・グィンスカ、ヨアンナ・マクラキエヴィチ

ポーランド人の能の研究者, 元駐日ポーランド大使ヤドヴィガ・ロドヴッチ・チェホフスカが、19世紀のポーランドの詩人アダム・ミツキェヴィチの戯曲『祖霊祭』からインスピレーションを得て, アイヌの歴史を通して解釈したものです。
7人の女性アンサンブルによって読み上げられ、演じられるシンプルなシナリオが生まれました。
１９０２年に樺太でブロニスワ・ピウスツキが記録した祖先への祈り言葉も響きます…

CEMiPoS
Ministry of Culture and National Heritage of the Republic of Poland
Co-financed by the Minister of Culture and National Heritage of the Republic of Poland
CULTURE.PL ADAM MICKIEWICZ INSTITUTE
The year of Polish Romanticism
Instytut Polski Tokio
北海道ポーランド文化協会
Hokkaido-Poland Cultural Association

なぜ？ １１月に北海道で

「ポーランド・アイヌ『祖霊祭』シンヌラッパ・クンネニサッ」

ヤドヴィガ・ロドヴィッチ=チェホフスカ

それは、私たち人間が空間、記憶、言葉、視線、時間を共有しなければならないからです。アダム・ミツキェヴィチは並外れた直感を得て、地中海・西欧文明の原初的な長所に基づいて作られ宮殿や中庭や学校や大学の劇場で見慣れているものとは異なる、スラヴ演劇のモデルを作りました。彼がこれを書いたのは、リトアニアとポーランドがロシアの植民地にされていたときのことです。

その約100年後、W・B・イェイツが、独立と言語文化の回復のために戦うアイルランド人のために、日本能楽の影響を受けて『踊り手のための四つの戯曲』を創作したように、ミツキェヴィチは植民地主義者の課した課題に従い、英国とは異なる国民性を生み出す仕事を自らに課したのです。

死者の霊との交感

ミツキェヴィチの『祖霊祭 Dziady』は、ポーランド演劇の発展における金字塔です。ミツキェヴィチは何年もかけて『祖霊祭』を書き続けましたが、その上演を見ることはできませんでした。その源にある種子とは、素朴なスラヴ民衆の宗教儀式あるいは行事でした。村人たちが（カトリックと正教会の権威が禁じていたため）密かに集まり、穀物、牛乳、菓子、ウォッカを捧げる異教の儀式を行い、死者の霊を呼び出したのです。Dziady という言葉には「祖父たち」という意味があります。地獄に行かず安らぎを得るにはどう生きればよいかという問いに、精霊が答えてくれると人々は信じているのです。精霊がやって来て答えてくれる。つまり、生きている人は死者と話し死者から学ぶことができるのです。ここからポーランド文学や社会におけるロマン的感性のエッセンスが発展しました。目に見えるものと見えないものが混交し、それにより人間は自己変革するべきなのです。そうして初めて、より良い人生を送ることができるのです。

詩劇『祖霊祭第二部』のテキストは非常にシンプルで、私たちはポーランド語原文の日本語訳の劇にアイヌ語のフレーズを加える試みも行っています。

ブロニスワフ・ピウスツキとの縁

私たちのプロジェクトの一つのきっかけは、120年前にブロニスワフ・ピウスツキが北海道（その前にサハリン）でアイヌの人々と出会い、彼らの言葉や習慣を記録したことです。彼は男女の声を録音しました。80年後先端技術のおかげで再生した昔の人々の声はまるで幽霊が話すように聞こえました。ブロニスワフは、生前は不運続きで、自殺しました。そのため、彼の霊を呼び出し、自殺の後に安らぎを得るには何が必要か尋ねることもできるでしょう。アイヌは彼に歌や時間や言葉を贈りました。時には食べ物やお金の贈り物と引き換えに。また、アイヌの人々は彼に子供や孫も授けました！アイヌの霊を呼び出しテキストと音楽を捧げて感謝するのには、正当な理由ではないでしょうか？

私たちは春から共同プロジェクトを立ち上げました。パートナーは CeMiPoS、さっぽろ自由学校「遊」、メノコモシモシ、北海道ポーランド文化協会、ユゼフ・ピウスツキ博物館、アマレヤ劇団です。基本的な資金はアダム・ミツキェヴィチ・インスティテュートと「ミツキェヴィチ×44」プログラム、およびポーランド広報文化センターから提供されています。

北海道ポーランド文化協会のご尽力により、7月3日にとても興味深い詩の夕べが開催されました（第11回「午後のポエジア」）。春に行われたメノコモシモシとのオンラインミーティングを経て、札幌でのライブリハーサルと11月28日の最終発表会を計画しています。ポーランド文学・文化の大家である関口時正先生の講義「アダム・ミツキェーヴィチ『祖霊祭』について」は、より良い準備となるでしょう。その前の11月23日には、メノコモシモシとアマレヤ劇団による動画の上映と新作パフォーマンス「Mówi ONNA 女は語る」を行います。ぜひお越しください。

（Jadwiga Rodowicz-Czechowska, スレユヴェクのユゼフ・ピウスツキ博物館副館長）［安藤厚訳］

《第 102 回例会》パフォーマンス「女は語る」2022.11.23（水）10:00～札幌文化芸術劇場 hitaru クリエイティブスタジオ
《第 103 回例会》講演・朗読&劇的朗読「ポーランド・アイヌ祖霊祭」11.28（月）13:20～かでる 2・7/16:30～シアターZOO

ポーランド広報文化センター INSTYTUT POLSKI TOKIO
Ministry of Culture and National Heritage of the Republic of Poland
CULTUREPL ADAM MICKIEWICZ INSTITUTE
The year of Polish Romanticism
Muzeum Józefa Piłsudskiego w Sulejówku
Co-financed by the Minister of Culture and National Heritage of the Republic of Poland

共催：北海道ポーランド文化協会 http://hokkaido-poland.com/ & CEMiPoS https://cemipos.org/

《第 103 回例会》ポーランドのロマン主義とは何か ～ポーランド・アイヌ『祖霊祭』夜明け前/シンヌラッパ・ケンネニサッ

11/28 (月)

※2 会場での開催です

第一部 13:20～15:00 かでる２・7_520 研修室

◆お話「ポーランド・アイヌ『祖霊祭』夜明け前/シンヌラッパ・クンネニサッについて」ヤドヴィガ・ロドヴィッチ=チェホフスカ博士（能の研究者、元駐日大使）

◆講演「ポーランドのロマン主義～ミツキェーヴィチ作『祖霊祭』の役割と意義」関口時正（東京外国語大学名誉教授）

◆朗読『祖霊祭』第２部より
林家とんでん平師匠（落語家）

第二部 16:30～18:00 シアターZOO

(南 11 西 1-3-17 ファミール中島公園 B1F, 011-551-0909)

♪劇的朗読「ポーランド・アイヌ『祖霊祭』夜明け前/シンヌラッパ・クンネニサッ」
作: ヤドヴィガ・ロドヴィッチ=チェホフスカ
出演: メノコモシモシ&アマレヤ
音楽作曲: アンナ・イグナトヴィチ=グリンスカ
ヨアンナ・マクラキェヴィチ

◆アフタートーク

---〈関口時正教授　講演資料〉---

ポーランドの国会下院は 2022 年を「ポーランド・ロマン主義 200 年」記念の年に制定した。詩人アダム・ミツキェーヴィチ(1798-1855)は 1822 年に『詩集第一巻』いわゆる『バラードとロマンス』をヴィリニュスで出版した（邦訳 2014、未知谷刊）。集中最も長いバラード「百合の花」は 354 の七音節詩行が連続する切迫したリズムと、感傷を排し被支配階層の視点から語る、文字通り革命的な傑作。『バラードとロマンス』の世界はそのすべてがベラルーシの三つの町ノヴォグルデク、ミール、バラノヴィーチェを結んだ各辺 50km にも満たない三角形の内側におさまる。

翌 1823 年、詩劇『祖霊祭』（第二・四部）が『詩集第二巻』としてヴィリニュスで刊行され（邦訳『祖霊祭 ヴィリニュス篇』2018、未知谷刊）、この二冊の詩集によってポーランドのロマン主義が始まった。

バラードと『祖霊祭』第二部に共通する最大の特徴は、すべてにおいて民間に伝わる物語や歌謡が素材となっていることである。後者については作者自身、作中の「儀式的歌謡、まじない、呪歌などはほぼ忠実に、時として文字通り、民衆詩から採って来た」と書いている。その「民」とは、ポーランド語ではない言語を母語とする人々だった。バラードも『祖霊祭』も、現在のポーランド共和国領土には含まれない、リトアニア、ベラルーシ、ウクライナにまたがる旧東方領土にリアルな根拠を有するものでありながら、支配者であるポーランド人の言語によって記述された世界なのである。ミツキェーヴィチはワルシャワもクラクフも知らない。今一つ、バラードと『祖霊祭』に共通する重要な特徴は、生者の世界における死者の記憶の現存、あるいは死者のテクストとの交流だろう。

1830 年 11 月 2 日フリデリク・ショパンはワルシャワを発ちイタリアをめざす旅に出る。その直後の 11 月 29 日、帝政ロシアの支配に叛逆する戦争「十一月蜂起」（「革命」ではない）がワルシャワで始まる。蜂起は翌年秋に鎮圧され、これはポーランド人の精神世界に甚大な影響を及ぼし、彼らのロマン主義も変質する。知識人のいわゆる「大亡命」開始（岩波書店刊『ショパン全書簡 パリ時代 下』p.609-627「ポーランド人の《大亡命》とショパン」参照）。変質したロマン主義は、もはや外部からは解読が不能な符牒や修辞に溢れることになる。その変貌の中心には再びミツキェーヴィチの『祖霊祭』第三部があった（1832 年パリで出版）。ポーランド独自のロマン主義が生まれた背景に、21 世紀の現在から二つの要因を見るとすれば、民族主義（あるいは国民国家の強迫観念）と社会進化論の極大化があったと言えよう。

マウリツィ・モフナツキ(1803-34)の言葉――

遂に藝術について書くのはやめるべき時が来た。我々の脳裏に、胸中に今あるのは別のことだ。我々が即興してみせた民族蜂起――これ以上素敵な詩があるだろうか！ 我々の生――それ自体がすでに詩だ。武具のざわめき、大砲の唸り声――これからはそれが我々のリズムであり、メロディだ。〔…〕僕はこの第一巻最後の数頁を、震える手で、胸震わせながら、「11 月 29 日」の数日前に書いていた！ 不安な刻限だった。僕の耳には鉄鎖の擦れる音が聞こえていた。胸のうちには（僕にはあまりにもおなじみの）牢獄の哀愁が霧のようにたれこめていった。

1830 年 12 月 14 日、ワルシャワにて記す
（みすず書房刊、関口時正『ポーランドと他者』p.93）

1863 年 1 月ワルシャワで「一月蜂起」勃発（～1864 秋）。制圧の結果、文化史にいうポズィティヴィズムの時代始まる。

協賛：ポーランド広報文化センター INSTYTUT POLSKI TOKIO / Ministry of Culture and National Heritage of the Republic of Poland / CULTURE.PL / ADAM MICKIEWICZ INSTITUTE / The year of Polish Romanticism / Muzeum Józefa Piłsudskiego w Sulejówku

Co-financed by the Minister of Culture and National Heritage of the Republic of Poland

第一部　朗読 アダム・ミツキェーヴィチ作・関口時正訳『祖霊祭 Dziady』第２部より

林家とんでん平 Hayashiya Tondenhei

〈一人９役〉

コロス
祭司
老人
天使

亡霊（声）
夜の鳥たちのコロス
大鴉(おおがらす)
木菟(みみづく)
娘

第二部　♪ 劇的朗読 dramatic reading

「ポーランド・アイヌ『祖霊祭』夜明け前/シンヌラッパ・クンネニサッ」
Dziady polsko-ajnuskie/Przedświt - sinnurappa-kunne nisat

◆作・芸術監督 text/artistic director
ヤドヴィガ・ロドヴィッチ=チェホフスカ Jadwiga Rodowicz-Czechowska

◆日本語翻訳 Japanese translation　関口時正 Sekiguchi Tokimasa
アイヌ語翻訳 Ainu translation　多原良子 Tahara Ryoko

◆出演 performance

メノコモシモシ Menokomosmos（アイヌ女性会議）

加賀谷京子 Kagaya Kyoko
多原　良子 Tahara Ryoko
楢木貴美子 Naraki Kimiko
河波まさ子 Kawanami Masako

アマレヤ劇団 Amareya Theatre & Guests

カタジナ・パストゥシャク Katarzyna Pastuszak
アレクサンドラ・シリヴィンスカ Aleksandra Śliwińska
ナタリア・ヒリンスカ Natalia Chylińska

◆音楽作曲 music composition
アンナ・イグナトヴィチ=グリンスカ Anna Ignatowicz-Glińska
ヨアンナ・マクラキェヴィチ Joanna Maklakiewicz

◆ブロニスワ・ピウスツキの声 voice of Bronisław Piłsudski
マレク・ブガイスキ Marek Bugajski